【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【公開番号】特開2005-222032(P2005-222032A)
【公開日】平成17年8月18日(2005.8.18)
【年通号数】公開・登録公報2005-032
【出願番号】特願2004-348533(P2004-348533)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/20　１０１

【手続補正書】
【提出日】平成19年12月3日(2007.12.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
熱転写画像形成ドナーからレシーバ要素のウィンドウ領域に顔料着色剤を熱転写して少なくとも１つのカラーパターンをレシーバ要素上に形成することにより、ウィンドウ領域ならびに潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方を有するレシーバ要素上にカラーフィルタ要素を作製する方法であって、顔料着色剤を熱転写する前に、テクスチャリング材料を熱転写テクスチャリングドナーからレシーバ要素に熱転写し、テクスチャリング材料を前記潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方に転写することを含む改良を特徴とする方法。
【請求項２】
前記テクスチャリング材料は、前記潜在マスク領域および前記顕在マスク領域の少なくとも一方に加えてウィンドウ領域部分に転写されることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項３】
熱転写画像形成ドナーからレシーバ要素のウィンドウ領域に顔料着色剤を熱転写して少なくとも１つのカラーパターンをレシーバ要素上に形成することにより、ウィンドウ領域ならびに潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方を有するレシーバ要素上にカラーフィルタ要素を作製する方法であって、顔料着色剤を熱転写する前に、テクスチャリング材料を熱質量転写テクスチャリングドナーからレシーバ要素にテクスチャリングパターンで熱転写し、該パターンは、前記マスク領域の一方の部分および前記ウィンドウ領域の部分を覆うことを含む改良を特徴とする方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１４２】
（事例の評価）
前記事例は、欠陥に対し、目視、および、２０倍の拡大鏡により評価することができる。欠陥の数は、ゼロ、僅かな数（１０未満、使用を防げるほど極端には無い）、多少の数

（１０～５０の欠陥、または、１～９の使用を防げる欠陥）、および、多数（５０を超える欠陥、または、１０以上の使用を妨げる欠陥）と分類することができる。比較事例は、多少の数または多数の欠陥を示し、本発明の事例は僅かな数またはゼロの欠陥を示すことが見込まれる。

本発明は以下の実施の態様を含むものである。

１．熱転写画像形成ドナーからレシーバ要素のウィンドウ領域に顔料着色剤を熱転写して少なくとも１つのカラーパターンをレシーバ要素上に形成することにより、ウィンドウ領域ならびに潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方を有するレシーバ要素上にカラーフィルタ要素を作製する方法であって、顔料着色剤を熱転写する前に、テクスチャリング材料を熱転写テクスチャリングドナーからレシーバ要素に熱転写し、テクスチャリング材料を前記ウィンドウ領域の一部ならびに前記潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方に転写することを含む改良を特徴とする方法。

２．前記少なくとも１つのカラーパターンは、前記レシーバ要素の少なくとも１つのウィンドウ領域上に形成されることを特徴とする前記１に記載の方法。

３．前記少なくとも１つのカラーパターンは、前記レシーバ要素の複数のウィンドウ領域上に形成されることを特徴とする前記１に記載の方法。

４．前記テクスチャリング材料は、無色であることを特徴とする前記１に記載の方法。

５．前記顔料着色剤は、透明な顔料着色剤であることを特徴とする前記１に記載の方法。

６．前記テクスチャリング材料は、透明な顔料着色剤を含むことを特徴とする前記５に記載の方法。

７．前記レシーバ要素は、ガラス基質を含むことを特徴とする前記１に記載の方法。

８．熱転写画像形成ドナーからレシーバ要素のウィンドウ領域に顔料着色剤を熱転写して少なくとも１つのカラーパターンをレシーバ要素上に形成することにより、ウィンドウ領域ならびに潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方を有するレシーバ要素上にカラーフィルタ要素を作製する方法であって、顔料着色剤を熱転写する前に、テクスチャリング材料を熱質量転写テクスチャリングドナーからレシーバ要素にテクスチャリングパターンで熱転写し、該パターンは、少なくとも前記マスク領域の一方の部分および前記ウィンドウ領域のわずかな一部を覆うことを含む改良を特徴とする方法。

９．前記テクスチャリング材料は、無色であることを特徴とする前記８に記載の方法。

１０．顔料着色剤は、透明な顔料着色剤であることを特徴とする前記８に記載の方法。

１１．前記テクスチャリング材料は、透明な顔料着色剤を含むことを特徴とする前記１０に記載の方法。

１２．前記レシーバ要素は、ガラス基質を含むことを特徴とする前記８に記載の方法。

１３．熱転写画像形成ドナーからレシーバ要素のウィンドウ領域に顔料着色剤を熱転写して少なくとも１つのカラーパターンをレシーバ要素上に形成することにより、ウィンドウ領域ならびに潜在マスク領域および顕在マスク領域の少なくとも一方を有するレシーバ要素上にカラーフィルタ要素を作製する方法であって、顔料着色剤を熱転写する前に、テクスチャリング材料を熱転写テクスチャリングドナーからレシーバ要素に転写し、テクスチャリング材料は、前記潜在マスク領域および前記顕在マスク領域の少なくとも一方に転写することを含む改良を特徴とする方法。

１４．前記少なくとも１つのカラーパターンは、前記レシーバ要素の少なくとも１つのウィンドウ領域上に形成されることを特徴とする前記１３に記載の方法。

１５．前記少なくとも１つのカラーパターンは、前記レシーバ要素の複数のウィンドウ領域上に形成されることを特徴とする前記１３に記載の方法。

１６．前記テクスチャリング材料は、無色であることを特徴とする前記１３に記載の方法。

１７．前記顔料着色剤は、透明な顔料着色剤であることを特徴とする前記１３に記載の方法。

１８．前記テクスチャリング材料は、透明な顔料着色剤を含むことを特徴とする前記１

７に記載の方法。
１９．前記レシーバ要素は、ガラス基質を含むことを特徴とする前記１３に記載の方法。